

2013年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936 (上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891 (福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 7月号

短時間でも自習することが大切

7月には二十四節気のうちの「小暑(しょうしょ)」と「大暑(たいしょ)」があり、日に日に暑さが増し、一年で最も暑さの厳しい時期となります。

暑い中、長い時間集中することは大人でも難しいものです。公文式の学習を開始してまだ日が浅い生徒であれば、たとえ5分間であっても、集中して学習できることは素晴らしいことです。ましてや20分、30分と集中できるのであれば、大人顔負けの力が備わっていると言ってもいいでしょう。子どもたちは大人が想像している以上に高い力を秘めているのだと気づかされます。

教室では「周りの生徒も集中して学習している」という状態で、どの子も集中できる雰囲気を醸し出すようにしています。ご家庭でも、兄弟姉妹で同じ時間に学習させる、できるだけ涼しい時間に学習するように声をかける、学習する横ではテレビを消すなど、集中しやすい環境づくりに、ぜひご協力をお願いします。それでもなかなか集中できないときは、10枚の教材を5枚ずつ2回に分けて学習するなど、できるだけ集中して学習できる方法を試みてまいりますので、教室までご相談ください。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

子どもを賢くする早道は、「読解力」を養成すること

数学教師だった私が、英語や国語の学習が大切だと考えるようになったのには、次のような理由があります。

高校の数学教師の立場から、算数・数学は、あれもこれもと欲ばらずに、高い計算力を持つことに的をしぼり、一人ひとりに必要十分な練習をくり返しながら段階的に学習を積み重ねていけば、だれでもできるようになると考えていました。実例を多く持てば持つほど自信も深めました。

ところが、方程式を解く幼児や低学年生を研究してみると、彼らの多くが読書力が高いという事実に出会いました。そこであらためて、子どもを賢くする早道は、「読解力」を養成してあげるべきだということに思い至ったのです。公文式国語の本来の目的は、子どもたちが多くの本を読むことを通じて、社会や人間のことを知り、自分がこの社会で何を成すべきかを、自分で考え行動できる子どもたちにすることにあります。公文式国語教材は、それらの本を読む際に、できるだけ速く正確に内容を理解するための「読解力」をつけるためにあるのです。

2013年 7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15 海の日	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本市場教室日□

横割教室日△

自由自在

自分の思うがままにできること。

「水泳の得意なお兄ちゃんは、海でも自由自在に泳ぎまわった。」

「手先の器用な妹は、どんなにむずかしいおりがみも自由自在だ。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

今月のことわざ

公文をもっとわかってください(28)

【第28回】家庭学習が変わる、子どもが伸びる4つのポイント

1. すらすらできる教材を選びましょう

くもんでは、入会するときに学力診断テストをして、そのお子さんが100点を取れるレベルはどこなのかを探します。考え考え解くのではなく、パッとわかってすらすらと答えが解ける箇所から学習をスタートできれば、勉強は楽しく意欲的に進められます。家庭でもこのやり方をお勧めしたいですね。保護者の方はお子さんのために問題集を選ぶとき、とかく難しいものを選ぶ傾向にあるようですが、チャレンジしたいタイプのお子さんならいいでしょうけれど、たいていのお子さんはレベルの高いものを与えられるとなかなか解けず、やがてやる気をなくしていきます。そうではなく、最初らくらくできることから始め、調子が出てきたら、少しチャレンジできることへ進むというようにしましょう。「またやりたい」と思えるちょうど量の学習をすることが、子どもたちを勉強好きにするコツで、これはくもんの50年にわたる歴史が実証済みです。できることをたくさんすることが実力をつける最短距離とくもんは考えているのです。子どもが「すらすらできてうれしい」という感覚を体感することが大事です。

2. 集中できる環境を作りましょう

保護者の方は、家庭で勉強する環境を整えてあげましょう。かといって勉強部屋を用意してそこでひとりで勉強させるというわけではありません。私はむしろリビングなど親の見守るなかで勉強したほうが効果があるのではと思っています。たとえば親が夕食の準備をするそばで子どもが宿題をしているなどです。夕食後、子どもが勉強していて、親は読書をするひとときを持つなどいいでしょう。普段の暮らしのなかに家庭学習の時間があれば子どもはすんなり勉強に入っていけると思います。夕食の時間を固定化することもお勧めです。各家庭で時間は何時でもいいのですが、「わが家の夕食は〇時」と決めてしまうのです。こうすると子どもは「夕食の前に宿題を済ましてしまおう」とか「夕食が終わったらこのテレビを見て、それから勉強しよう」というように、自分でスケジュールを決められます。子どもは自分で決めたことなら親が驚くほどがんばるものです。逆にその日の親の都合で時間が変わると、子どもは自分で決めることができずに親に振り回されることになります。ムリのない範囲で時間を決めてみてはいかがでしょうか。

3. ほめる親が子どもを伸ばします

長い間、多くの保護者の方とお子さんを見て、ほめるお母さんほどお子さんの成績を伸ばす”と実感しています。何かできたら心からほめましょう。口に出してほめることがポイントです。親は何事も「以心伝心」と思いがちですが、実際は、言わないと伝わらないものです。しっかり口に出すほめ言葉は、抜群の効き目がありますよ。苦手な問題はできるようにするよう、サポートしてあげましょう。ミスが多いテストをよく見てください。たとえば、「7+8=」の答えがあやふやだったり、九九の7の段だけいくつかを忘れていたりなど苦手やミスの傾向がわかります。サポートする際は、本人のプライドと自立心を損ねないように気を配ることが大切。ミスしやすいものだけ答えを含めて紙に書いてそばに貼っておき、不安になったとき、本人がチラリと見れば安心して答えが書ける工夫なども効果的です。そして、がんばった後には必ずほめ言葉を！「そんなことをしたら子どものためにならないのでは」と思われるかもしれませんが、家は学校ではありません。大切なことは子どもが勉強が好きになり、自分から進んででき、学校へ行くのが楽しいと思えること。お母さんは子どもにとっての一番の味方であってほしいと思います。

4. 苦手が出たら戻って復習しましょう

くもんでは、学年の枠を設けていません。3年生だから3年生の勉強をするのではなく、2年生の問題を解いている子もいれば、4年生の勉強をしている子もいます。家庭学習でも学年にとらわれずに進めていくといいと思います。とくに苦手な科目がある場合、どこでつまづいているかを見つけるには、戻って復習することが大事です。たとえば2ケタ×2ケタの筆算が苦手という場合、実は九九であやふやな段があったとか、場合によってはたし算やひき算ができていなかったということもあるものです。わからなくなったら戻りましょう。4年生でわからなくなったら3年生または2年生まで戻ります。理解しにくい場所まで戻るのはではなく、もう一段落やさしいところ、自分ですらすら解けて100点をいっぱい取れるところを探して、そこから再スタートすると、苦手な坂を楽に越すことができます。子どもは正直ですから、「ここならできる」「ここは自信がある」というところは自分でちゃんとわかるものですよ。学年の枠に縛られず3年生でも2年生の勉強ができるのは家庭ならではの特権と考えましょう。勉強でも”急がば回れ”が大事です。

その他連絡

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

6月分の会計引き落としは6月28日(金)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。